

9

2005年

組合広報

NO. 465

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

わたしの意見	技能教育委員会中間報告	技能教育委員長 志田 和陽	1
役員会委員会	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		3
	工組第3回理事会		4
	広報委員会		
	東京都関係部局に、東京都予算及び東京都事業へ要望		9
	平成 18 年度東京都予算及び平成 17 年度東京都事業への要望		
	広報支部長座談会「各支部の活動と現状」		14
	計報		21
あなたの予定表	9月の環研・協組集荷日程ほか		22
	訓練校 10 月授業案内		23
	シベリア鉄道の旅	組合相談役 江原 猛二	24
	中国一人旅	川口 登	26
	都職業能力開発協会の研修のご案内、めっき部会例会ご案内		28
	全中調査結果「下請中小企業の最近の動向」		29
ピック・アップ	アルマイト皮膜処理技術他		32
支部シリーズ	葛飾支部の巻「水元公園」		34
つま恋坂	「雑記」	籠利 達郎 (向島支部)	35
支部通信	城南・品川支部、葛飾支部		36
	城西支部、足立支部		
	中小企業の景況		40

技能教育委員会中間報告

技能教育委員長 志田 和陽



日頃より、東京都鍍金工業組合・技能教育委員会へご理解、ご協力を賜りますこと厚く御礼を申し上げます。また、皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成 17 年度技能教育委員会の事業は、9 月をもちまして半年が経過致しました。委員会、上半期の事業報告をさせていただきます。

3 月に行われた新入校生素養調査(面接)と 4 月 5 日(火)の高等職業訓練校入校式から 17 年度事業は始まります。今月、現在におきましては始業当初 50 名がおりました訓練生の中より 2 名が個人的な事情により退校しており在校生は、48 名となっております。参考として年間退校者の数は一昨年は 0 名、昨年は 1 名でした。退校理由の調査、分析を行いまして今後の課題と致したいと考えますが、せっかく入校を果たしながらもう少し頑張れなかったのか、別の選択方法がなかったのかと訓練校側としても残念です、平成 18 年度の訓練生募集は開始されておりまして近々には定員が確保される状況と報告されています。大変に恐縮でございますが、社員の方が入校を希望される事業所の担当者様には、願書の申し込みはお早めをお願い致します。

議義科目の方ですが、7 月より「生産実技」も始まり 10 月には課外授業の「工場見学」も予定されています。講師の受け持ち授業と時間割などに多少の変更がございましたが、神戸教頭をはじめとする先生方にご高配を頂きまして順調に進行されている次第です。

平成 17 年度前期技能検定実技試験(めっき職種・電気めっき作業)は、去る 7 月 23 日(土)～24 日(日)の両日、湯島のめっきセンター内、実技試験会場に於いて受験者数、1 級 15 名、2 級 51 名、3 級 1 名の合計 67 名により実施致しました。実技試験の判定結果は、既に判明しておりますが、後日行われた学科試験(学科試験免除者を除く)と合わせた総合判定結果は、10 月 4 日(火)にございます東京都からの合格発表をお待ち下さい。

訓練校の技能照査と検定実技試験に使用される試験設備の更新も本年度より着工され、数年をかけて完了の予定です。さらに年々、技能検定試験を受験される人達が増加しておりますなか検定実技試験に携わる委員の増員とそれに伴う予算措置を関係局をお願い致しております。

尚、本年度の検定実技試験を行う上で重要な課題となった事柄がございます、6 月に東京都職業能力開発協会主催で行われました首席検定会議で「17 年度前期技能検定実技試験実施方針」が以下のように説明されました。

(1)技能の危機・熟練技能士の不足

＊高齢化、リストラ、2007 年問題、少子化

(2)技能士の社会的評価 ＊地位の向上と確立

(3)社会制度の変化と技能検定制度の改革

＊個人情報保護法全面施行

＊昭和 34 年技能検定制度発足以来の改善
(4)技能検定実技試験に関わる不祥事の続発

- ＊試験の信頼性を損ねる事態
- ＊事前講習会、試験会場での不祥事

特に(4)の項目につきましては、他業界の委託団体が試験において職業能力開発推進法(秘密保持義務)違反の疑いによる不祥事が発生したこともあり、当検定委員会でも技能検定水準調整会議で東京都職業能力開発協会の方々々と慎重に防止策を検討し改めて全委員、全職員に周知徹底致しました。しかるに、その席上にて東京都鍍金工業組合に委嘱された技能検定実技試験は、過去においても不適切な行為は皆無であり、将来にわたり厳正かつ公正な実施を行うと明確に断言させて頂いております。

終りとなりますが技能教育委員会は、年間 5 回の委員会を設定しておりますが、それ以外にも 10 回程の招集があります。訓練校の技能照査は 1 日中、検定実技試験は、開始から撤収までの 2 日間、早朝から夜遅くまで作業時間が掛かります。その他の行事でも拘束時間は大変に長くなります。委員の皆さん達には前半かなり無理をさせましたので本年度は、隔年で秋季に開催している訓練校のフォローアップ事業(通称：修了生同窓会)も未開催の年でもあり、10 月 13 日(木)の委員会が散会后、来年 1 月末までの間、暫くお休みを頂戴致します。ご了承願います。担当副理事長と正副委員長は休まず職務を行います。



(技能検定慰労会 8 月 26 日(金))

文末となりましたが、本文を執筆中、本校の講師であります鈴木昭壺様の御逝去の報に接しました。かねてから入院加療中とお聞きしておりましたが、まさかの訃報に驚いております。鈴木様には訓練校が発足してまもなくから教鞭をとって頂いており、めっき業界の発展にご尽力をされた功績者のおひとりです。36 期を迎えた訓練校修了生の多くが鈴木様の教えを受けられ、めっき業界と関連業界で活躍しております。私自身も第 9 期訓練生として講義を拝聴し今日に至っております。ここに謹んで哀悼の意を表させていただきます。

私ども高等職業訓練校めっき科の関係者は、この悲しみを乗り越え、怯む事無く訓練校を運営し本校に集う人々の知識と技能の向上を目指し、これからのめっき業界に於ける盤石の礎を築く人材を育てることが故人に対してなによりのご供養になると考えております。鈴木先生、30 年の長きに及ぶご指導を頂きまして誠にありがとうございました。お疲れになったと思います。どうぞ安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

大村理事長日誌



8月

3日(水) 正副理事長会
東京都各部局へ予算要望

5日(金) 石原都知事セミナー
鈴木昭彦先生お見舞い
9日(月) 全鍍連事務局打合せ
10日(水) 全鍍連総務策委員会
工業組合事務局打合せ
19日(金) 全鍍連技術委員会
工業組合事務局打合せ
22日(月) 都中央会正副会長会
23日(火) 都中央会事務局
全鍍連総務三役会
環境プロジェクト
26日(金) 城南・品川支部合同納涼会
29日(月) 東京都産業労働局他関係部局へ
予算要望
30日(火) 全鍍連正副会長会

～組合・関連団体行事予定～

10月3日(月) 都知事表彰式
10月4日(火) 広報委員会
10月5日(水) 正副理事長会
10月6日(木) 環境委員会
10月11日(火) 東京都各会派ヒアリング
10月12日(水) 全鍍連近代化三役会
10月13日(木) 技能教育委員会
全鍍連環境三役会・常任理事会・
財政検討委員会
10月14～16日(金～日) 葛飾区産業フェア
全鍍連広報委員会
10月15日(土) J E S 秋季大会
10月18日(火) 訓練校工場見学
10月20日(木) 全鍍連関東甲信越静岡ブロッ
ク会議・技術三役会・めっき技術コンク
ール審査委員会
10月21日(金) 向島支部環境月間講習会
全鍍連東海北陸ブロック会議
10月23日(日) 十日会ゴルフ大会
10月24日(月) 日本硬質クロム工業会秋季
研修会
10月25日(火) 支部長会
10月26日(水) 全鍍連総務委員会
健保組合理事会
10月27日(木) 監事会
10月28日(金) 城北、大田支部環境月間講習会
全鍍連中国四国九州ブロック会議
厚生年金基金選挙代議員会
11月2日(水) 正副理事長会、理事会
11月6～12日(日～土) 全鍍連海外視察研修
11月9日(水) 中央支部環境月間講習会
11月10～13日(木～日) 十日会海外研修

工組 第3回 理 事 会

平成 18 年新年賀詞交歓会開催承認

と き 平成 17 年 9 月 7 日(水)
午後 6 時 30 分～8 時
ところ めっきセンター4 階会議室
出席者 大村、姫野、由田、川上
八幡、青木
木下、元井、高倉、志田
篠根、小嶋、小澤、神谷
池田、安斎
遠藤、西田、小橋、荻宿
高橋、若山、小谷野、藤田
原、佐藤、池田、吉川
宮川、今泉、高松、木下
斎藤、永田、細井、小倉
菊池、石田、山田、岡本
西原、柴
監 事 新井、平野

青木専務理事が定足数を満たしていることを報告、大村理事長の開会の挨拶の後、議長となり、議事録確認者として、城南支部長の若山満理事、品川支部長の藤田直人理事を指名し、議事に入った。

1. 平成 18 年度東京都予算等に対する要望について

青木専務理事が要望書資料に基づいて説明した。

すでに 8 月 29 日正副理事長が東京都関係部局を訪問し要望を行った。10 月 11 日、正副理事長が東京都議会各会派毎のヒアリングに出席し、直接業界の現状と要望を説明する。

要望事項は 4 つあり、土壤汚染対策は環境局、技能検定は産業労働局、上・下水道料金の減額措置継続は水道局・下水道局に要望する。多摩地域における下水道料金の減額措置の要望については、東京都下水道局は 23 区で下水道事業を営んでいる事業者に過ぎないのであり、東京都としては市町村指導を担当する部局



ではない。市町村は下水道事業者として都と対等であり、しかも下水道料金減額は議会の付帯決議をもって行う関係から、東京都から市町村に対してこうして下さいとは言えないということで、都議会各会派に願う。要望書は別掲。

2. 「ものづくり産業における人材育成策に関する検討調査」ヒアリング調査のお願い

青木専務理事から、下記の要請があったことを説明した。

(財)広域関東圏産業活性化センター(略称G I A C)及び関東経済産業局作業部製造産業課は現在「ものづくり産業における人材育成策に関する検討調査」を実施している。我が国の重要な基盤技術型企業、とりわけ国際競争力を持つ金属プレス、プラスチック成形、表面処理等の「素形材産業」のうちでも先進的な企業を訪問してお話を伺うヒアリング調査を実施し、企業の現状と今後の課題を適確に把握し、さらなる発展のための製造現場の「人材育成」をはじめ企業の競争力向上のための支援策のあり方等を検討していきたい。その前提として、貴業界の現状と展望等について、人材育成の実態を含めて、ご協力をお願いしたい。

平成 16 年度に基盤技術型企業、特に鋳造・鍛造、金型、熱処理の 4 業種を中心に実態把握を行っているが、さらに平成 17 年度には表面処理(研磨・メッキ、塗装等)・金属加工(プレス等)・プラスチック加工等を加えた実態把握を行うことで、ものづくり産業の全体像を押さえ、日本の「ものづくり産業」維持のために基本となる人材育成策について、中小企業の視点から検討する。

調査は、○ものづくり産業の実態把握

調査(ヒアリング)、○ものづくり産業の人材育成策の検討(学識経験者、専門家による委員会方式)

質問項目は、2 頁程度の簡単なもので、○業界の現状：生産推移、主な製品や市場・顧客、○業界の要望、○今後取り組みが必要な問題・課題、○人材育成の実態・課題、○支援策の要望など。以上説明の後、各支部に同ヒアリング調査協力事業所(各 1 社)の推薦を依頼することとした。

3. 平成 18 年新年賀詞交歓会開催について

青木専務理事が開催概要を説明した。
日 時：平成 18 年 1 月 12 日(木)午後 6 時～
会 場：目黒雅叙園 2 階「舞扇」

大村理事長は、実行委員長に由田副理事長にお願いし、実行委員は昨年同様に総財務三役、支部長にお願いしたいと補足した。

由田副理事長は、実行委員長を仰せつかったが、副委員長に小澤総財務委員長にお願いするとともに第 1 回実行委員会を開いて支部長の中から副委員長を選んで頂きたい。委員として総財務副委員長の池田常任理事、篠根常任理事に加わって頂きたい。前回の反省点を含めて、東京組合の結束が図れる意義ある賀詞交歓会となるよう努めていきたいと補足し、これを承認した。

4. 月次予算実績管理について

青木専務理事が、第 1 四半期として 6 月までの実績と前年同月対比などについて説明した。また総代会で承認された剰余金処分を 5 月 30 日に実施したことを報告した。

新井監事が、昨日、由田副理事長立会

いのもと、平成 17 年度第 1 四半期の工業組合と協同組合の会計監査を実施した。その結果、本日提出の貸借対照表及び損益計算書が組合の損益の状況を正しく表示しているものと認めた。提案事項として、平成 3 年 3 月 26 日付めっきセンター建物だけに設定されている根抵当権 4000 万円があるが、現在の借入金残高はゼロであり抹消してはどうか検討をお願いしたい」と監査報告、承認された。

5. 組合員の異動

＜加入 2 社＞

大田支部：(有)志田工業所(代表者・志田のり昭 大田区東糀谷 4-2-18)、大田支部：東京黒染工業所(代表者・菅野正 大田区大森西 1-14-25)

＜脱退 10 社＞

城東支部：(有)三協電化工業、江戸川電鍍城西支部：清水鍍金工業、(有)藤野鍍金工場、高橋メッキ工業(有)

城北支部：猪瀬鍍金工場

足立支部：(株)仁木鍍研工業所

向島支部：(有)宇野メッキ、(有)板倉鍍金工業所、(株)中央メタル

＜変更 5 社＞

中央支部：中村鍍金工業(株)代表取締役社長 中村建夫→代表取締役社長 中村建輝

城東支部：(有)鈴木鍍金工場代表取締役鈴木工匠頭→代表取締役 鈴木悦子

西部支部：(有)武蔵野化学工業所取締役加藤昇児→代表取締役社長 加藤道夫

品川支部：(有)佐藤硬質鍍金工業所代表取締役 佐藤二郎→代表取締役 佐藤一男

葛飾支部：黒田メッキ工業代表取締役黒田宗夫→(有)黒田メッキ工業代表取締役 黒田宗夫

以上の通り 2 増 10 減で現組合員数 499

社となることを報告した。

6. 顧問相談役会・大村理事長の都中央会・全鍍連両団体会長就任祝賀会の収支報告について

青木専務理事が、去る 7 月 27 日(水)東京プリンスホテルパークタワーで開催した顧問相談役会並びに会長就任祝賀会の収支報告を行い、承認された。

7. 「組合員増強対策」資料送付先チェック回答状況

青木専務理事が説明し、前回理事会で員外の組合加入勧誘のための、電話帳に基づく員外資料の調査依頼を各支部長にお願いし回答を頂いた。その結果 94 社を選定頂き「組合案内」「組合加入のメリット」を配布することにした。

8. 全鍍連環境整備優良事業所の推薦依頼について

青木専務理事が、全鍍連からの環境整備優良事業所の推薦依頼について説明、了承された。

9. 産業展日程案内

第 21 回葛飾区産業フェア(10 月 14 日～16 日(金～日)/テクノプラザかつしか)

小倉葛飾支部長から、今年の展示に向けて毎週十数名が集まり、大きな展示品を作製しており、支部活性化の 1 つともなっている。是非ご覧を頂きたいと説明した。

第 7 回産業ときめきフェア inEDO GAWA(11 月 18 日～19 日(金～土)/タワーホール船堀)

遠藤城東支部長から、葛飾支部さんのご支援を頂きながら、インパクトのある展示をしようと黄金のバイオリンを製作

予定である。まだ決まっていないこともあり、次回に報告したいと説明した。

あだち地場工業製品フェア(12月13日～14日(火～水)/足立区役所内庁舎ホール)

永田足立支部長から、同フェアは足立区の主催で開催される。当支部は足立区工業連合会に加盟している関係から単組として展示参加しているが、主に足立区地場工業の優秀な製品をご覧頂きたいと説明した。

10. 支部統合問題検討委員会の設置について

大村理事長から、同委員会の担当を由田副理事長にお願いし、委員として城南支部の中澤常任理事、若山支部長、品川支部の高倉常任理事、藤田支部長、向島支部の池田常任理事、石田支部長、本所支部の安斎常任理事、山田支部長にお願いすることになった。第1回委員会を9月20日に開催するので、よろしくお願いしたい、と報告した。

11. その他

大村理事長から、東京組合員で他県に工場をもっている方が他県組合員になっていない例があると聞いており、他県の行政上の関係もあり、複数組合に所属するのは大変かもしれないが、他県組合への加入をご検討頂きたいと報告した。

神谷常任理事から、理事会に先立ち広報支部長座談会を開催したところ、土壤汚染問題が出されたので環境プロジェクトの対応策について伺いたいと質問があった。

大村理事長は、まだ具体的な案は出ていない。組合顧問弁護士の中本先生に相談したところ、法律は過去にさかのぼらないという大前提があるが、それを裁判

では争わない方がいいだろう。まだ取締りや罰則を受けた事例はない。我々業界としては、土壤汚染は過去の問題であり、国や都道府県に助成をお願いする方向で進めていきたい。我々は経営環境が厳しいなかでお金を出せないで、調べろと言われれば調べるが、その費用を出して下さいという姿勢で臨んでいこうと、東京都への要望にも入れているが、東京だけの問題にはとどまらないので、全道連においても検討中である。固定資産や相続税の問題もあり、どういう形で進めていくか検討して要望をまとめていきたいと考えている、と回答した。

菊池理事(亜鉛部会会長)から9月14日の亜鉛部会講習会の参加について案内があった。

川上副理事長が環境問題の報告とともに、閉会の辞を述べ、理事会を終了した。

工協組 第2回 広報委員会

新企画を検討

と き 平成17年8月18日(木)
午後6時30分～8時

ところ めっきセンター会議室

出席者 姫野、神谷、半田、木下
内山、板倉、石川、佐藤
堀江、小島、広根、籠利
野田、岡

(事務局) 島田

神谷委員長は「前回は納涼会であったが、今回は新しい企画、これまでと違ったものを出して頂きたいと思うので、みなさんの協力をお願いしたい。なお委員

会の服装は堅苦しい背広にネクタイということではなく、気軽な服装で参加して頂きたい。みなさんの意見を聞くために指名することもあるので協力をお願いしたい」と開会の挨拶。

姫野副理事長は「猛暑の中第2回委員会を開催する。新しい神谷委員長のもと2年間みなさんの協力をお願い申し上げます」と挨拶した。

半田副理事長は「新たに神谷委員長のもと、委員みなさんにご協力を宜しくお願いしたい」と挨拶した。

1. 広報8月号校正、9月号、10月号の編集方針について

8月号は役員会委員会等の顔写真集が中心であるが、内容のチェック、訂正等を行った。9月号は志田技能教育委員長に私の意見を願うするほか、支部長座談会等を掲載する。10月号は環境委員会担当の川上副理事長に私の意見を依頼するのをはじめ環境管理強化月間等を取り上げる。

2. 新企画について

神谷委員長から、気軽に読んで頂ける新しい頁を作りたいと提案があり、検討した。内容としては組合員の方々の身近な話題、良く行かれる馴染みのお店の紹介、あるいは、趣味の話など特に限定しないこととした。

まず見てもらうためには、引きつけられるようなタイトル

ネーミングが必要であると、各委員から、「散歩道、回り道、寄り道、お気に入り、コーヒーブレイク」などの意見があり、この中から「お気に入りの散歩道」とすることを決め、タイトルは書道を趣味とする板倉委員に執筆をお願いし、10月号から神谷委員長所属の葛飾支部からスタートし、順次副委員長、各支部が行うことにした。

また神谷委員長から、個人情報保護などを配慮しながら、土壌汚染問題も情報として取り上げていきたい。全鏡連広報委員会活動などの説明があり、最後に木下副委員長は「副委員長を仰せつかり、私も広報充実のためみなさんとともに努力していきたい」と閉会の言葉を述べ終了した。



東京都関係部局に、東京都予算及び東京都事業へ要望

東京都鍍金工業組合と東京公害防止協同組合は、めっき業界の抱える諸問題に対する東京都のご理解ご支援をお願いする「平成 18 年度東京都予算及び平成 17 年度東京都事業への要望」をまとめ、正副理事長、専務理事が 8 月 29 日(月)午後 2 時から東京都各部局を訪ね、要望書に基づいて業界の実情、問題解決へのご支援を要望した。

要望事項は(1)土壤汚染対策に関するお願い、(2)技能検定実施に関するお願い、(3)水道料金・下水道料金の減額措置継続等に関するお願い、(4)多摩地区における下水道料金の減額措置に関するお願いの 4 つで、多摩地区における下水道料金の減額措置に関するお願いでは東京都に担当する部局がないことから、要望書は提出しないで、改めて都議会各会派に提出、要望することになっている。

当日は午後 2 時から産業労働局雇用就業部・松本泰之部長、西沢潤能力開発課



(産業労働局へ要望)



(環境局へ要望)



長、杉野久雄副参事等と面談し、「技能検定実施に関するお願い」を要望した。特に八幡副理事長は技能検定受験者が年々増えており、その対応に苦慮している現状などを説明した。

次に環境局環境改善部を訪問、柿沼潤一参事、石原肇副参事等と面談して「土壌汚染対策に関するお願い」を要望した。組合からは、廃業する業者は資金的に苦しい状況にあり、法、規則に定められた調査猶予措置や一部調査免除措置が受けられるよう、また費用負担能力の低い業

者に対して財政援助等の配慮をお願いした。都側からは、直接支援は難しい。土壌調査・処理費用の低減化を最重点課題として取組んでいるなどの説明を頂いた。

下水道局業務課部・星合光業務課長、松島修排水指導課長等と面談し「下水道料金の減額措置継続に関するお願い」を要望するとともに、亜鉛規制強化など排水規制問題についても懇談要望した。水道局サービス推進部には「水道料金の減額措置継続に関するお願い」の要望を行い、東京都のご支援をお願いした。

平成 18 年度東京都予算及び 平成 17 年度東京都事業への要望

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

日頃、私どもの業界に対して、あたたかいご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

めっきは金属を腐食から守り、美しい装飾性を持つほか、耐磨耗性、電気伝導性等の機能的用途にも用いられています。さまざまな製品・部品の表面を創生するうえで重要かつ不可欠な技術であり、航空機・自動車から携帯電話・パソコンの部品にいたるまで、人の生活の中のありとあらゆるところで用いられている技術です。

このように重要な役割と使命をもちながらも、我が国のめっき業界の現状を見ますと、国内産業の空洞化の影響を大きく受け、受注量の大幅な減少、加工単価の値下げ要求など、厳しい経営環境が続いています。さらに、強化される一方の環境規制をはじめ、技能の承継や人材育成など、早急に取り組まなければならない困難な課題に直面しています。

とりわけ、めっき業は環境負荷の大きい原材料を使用するため、環境問題には特段の配慮が必要とされており、「環境との共生」はわが業界の最重要課題であると認識しております。

私達は、直面する困難な課題解決のために創意・工夫、自助努力を積み重ねる一方、現実的かつ具体的な提案を各方面に対して行い、関係行政機関等との連携を一層強化してまいりたいと考えております。

改めて申すまでもなく、東京は中小企業の集積する産業都市であり、中小企業の活性化なくして東京の発展はない、といっても過言ではありません。とりわけ、モノづくり

に励む中小製造業の生き残りとは再生は喫緊の課題であり、私達めっき業界にはそのモノづくりを支えるという重要な、社会的役割が課せられています。

どうか、めっき業界が置かれた現状をご理解いただき、平成 18 年度の東京都予算に私達の願いを反映されるべく、予算措置を講ずるなど、特別のご配慮を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

・要望分野(平成 18 年度東京都予算及び平成 17 年度東京都事業への要望)

1. 土壌汚染対策に関するお願い<環境局>

(1)土壌汚染対策法に規定する土壌汚染調査猶予措置や、土壌汚染対策法施行規則に規定する経過措置(工場等の敷地面積が 300 m²以下の土地における一部調査の免除措置)が講じられるよう、東京都環境確保条例の柔軟な運用をお願いしたい。

(2)土壌汚染調査や土壌浄化措置に要する費用の負担能力が低い中小企業に対して、財政上の手厚い援助を行う等、東京都環境確保条例に規定する「必要な助成措置」を講ずることにより、事業者が法律・条例の目的に沿って的確に対応することを促進されたい。

【趣旨説明】

21 世紀は環境の世紀といわれ、すべての人、組織、団体等にとって、環境問題への対応は避けて通れない重要課題となっています。地球規模で良好な環境を確保することは、人類共通のテーマであり、特に、人間の生命や健康の保持・増進は他の何よりも優先されるべき事柄です。

このような認識のもとに、当業界では、従前から環境に十分配慮し、有害物質を扱う事業場においては、製造工程における有害物質の排気・排水・廃棄物(空気・水・土)の管理の徹底を図るなど、「環境との共生」に努めてきたところです。

私達は、環境確保に関する法や条例を時代の流れに逆行するような方向に見直すことを求めるのではなく、私達めっき業者が環境と共生しながら安定した経済活動を営み、モノづくりを支えていくことができるよう、法令の運用に当たっては業界や企業の実情に十分配慮していただきたいと願っています。

現在、めっき業界で最も大きな環境規制問題となっているのは土壌汚染対策です。土壌汚染対策法や東京都環境確保条例は、実行のときに適法であった行為による汚染や、原因不明の汚染についてまで現在の土地所有者・操業者等に調査義務・浄化措置義務等を課し、これに違反した場合は刑事責任を問うという、過酷な法令です。

法律・条例によって義務付けられた土壌汚染調査や土壌浄化措置に要する費用は高額で、汚染の度合いによっては浄化に要する期間は長期にわたります。昨年来、東京都環境局のご尽力により、低廉な価格で短期間に調査・浄化を行える技術が民間業者によって開発されつつありますが、そのような「低廉な」費用ですら負担能力のない小規模企業が多くのを占めているのが業界の実情です。

そこで、法、規則に定められた調査猶予措置や一部調査免除措置が講じられることと、費用負担能力の低い中小企業者に対して、法に定める「特別の配慮」を踏まえて、調査・浄化措置等を着実に実施するための手厚い財政援助等、条例に定める「必要な助成措置」を講じられることをお願いするものであります。

2. 技能検定実施に関するお願い<産業労働局>

電気めっき技能検定(実技試験)の実施にあたって、検定委員及び補佐員のほかに必要な応援要員(組合員、職員)に係る経費を、協力経費として東京都職業能力開発協会が負担できるよう、予算措置をお願いしたい。

【趣旨説明】

近年、生産技術の進歩に伴い、めっき加工においてもますます高精度、高品質が要求されてきております。当組合では、働く人々の技能習得意欲を増進させ、その社会的・経済的な地位の向上を図るとともに、めっき業界の技術・技能の振興を図るために、東京都職業能力開発協会から委託を受けて電気めっき技能検定の実技試験を実施しています。

実施に臨む態勢としては、17年度、検定委員6名、補佐員6名が任命されましたが、現実にはこれに加えて、8名の一般組合員と13名の事務局職員、総勢21名の応援によって試験を実施しております。

これらの応援要員は試験実施当日(土、日)のみならず、水準調整会議、課題説明会、準備日等にも検定試験業務に携わっており、かなりの時間を検定試験のために割かなければなりません。組合員(めっき企業経営者)は休日返上で業務にあたっており、日常業務に従事している事務局職員には、検定試験準備のため残業を余儀なくされるケースもしばしば見受けられます。

技能検定制度の趣旨にかんがみ、業界も「応分の負担」をしなければならないことは承知しておりますが、国内産業の空洞化等の影響により組合員数が減少していく一方の当組合にとっては、現状における応援要員に係る経費負担は非常に重く、これらを軽減していただける予算措置をお願いするものであります。

3. 水道料金・下水道料金の減額措置継続に関するお願い<水道局・下水道局>

めっき業に対する水道料金、下水道料金の減額措置が、平成18年度以降も継続適用されるよう、特別の配慮をお願いしたい。

【趣旨説明】

水はめっき業にとって大切な原材料であり、私たちは英知を結集して、水の循環利用や節水に努めてまいりました。また、排水についても、排水基準に従い、事業場において浄化処理を行ったうえで下水道に排出するなど、最大限、適正処理の努力を重ねてまいりました。

このため、排水のコストは加工生産額の約10%に達しており、仕事量が激減する中にある、その負担感がますます大きくなってきていることから、私達は従前より水道・下水道料金の減額措置をお願いしてまいりました。

その結果、東京都の関係者各位のご理解とご協力により、めっき業に対する水道・下水道料金の減額措置が講じられ、私達はその適用を受けて今日に至っています。ここにあらためて、厚く御礼申し上げる次第です。

私たちの業界が東京の産業をモノづくりの面から必死に支えている実情にご理解をいただき、水道・下水道料金の減額措置が平成18年度以降も継続適用されますよう、お

願ひ申し上げます。

4. 多摩地域における下水道料金の減額措置に関するお願い

現在、東京 23 区内においては、めっき業に対する下水道料金の減額措置を講じていただいておりますが、多摩地域においては、めっき業に対する下水道料金の減額についての各市の対応はまちまちでありますので、すべてのめっき事業者には公平な措置が講じられるよう、関係市への働きかけをお願いしたい。

【趣旨説明】

水はめっき業にとって大切な原材料であり、私たちは英知を結集して、水の循環利用や節水に努めてまいりました。また、排水についても、排水基準に従い、事業場において浄化処理を行ったうえで下水道に排出するなど、最大限、適正処理の努力を重ねてまいりました。

このため、排水のコストは加工生産額の約 10%に達しており、仕事量が激減する中にあること、その負担感がますます大きくなってきていることから、私達は従前より水道・下水道料金の減額措置をお願いしてまいりました。

その結果、東京都の関係者各位のご理解とご協力により、めっき業に対する水道・下水道料金の減額措置が講じられ、私達はその適用を受けて今日に至っています。ここに改めて、厚く御礼申し上げる次第です。

しかしながら、下水道料金については、23 区内の事業所は東京都下水道局の管轄であるため減額されるものの、多摩地域においては、市によってまちまちです。当組合の組合員事業所が所在する 14 市のうち、めっき業に対して下水道料金の減額に対応してくださっている市は 4 市であり、他の 10 市は未対応であります。ぜひ、多摩地区においてもすべての事業者に対して 23 区内と同様の措置が講じられますよう、ご尽力をお願いいたします。

〔参考資料〕

減免措置あり：八王子、日野、多摩、小金井

減免措置なし：昭爵、立川、武蔵村山、青梅、三鷹、調布、狛江、小平、東村山、西東京

広報委員会主催支部長座談会

各支部の活動と現状

厳しい経営環境から組合員の廃業、脱退が続き、支部運営も財政等厳しさを増している。向島支部では従来からの事務局体制を維持するため昨年度支部費を値上げした。また、廃業時には土壌汚染問題等から破産など深刻な事態が表面化している。さらに支部員数の減少に伴い、支部の統合がクローズアップされ、組合本部でも大村理事長の方針に沿って「支部統合問題検討委員会」が立ち上がり検討することになっている。各支部の現状と問題点などについて各支部長から伺った。司会進行は神谷博行広報委員長である。
(05.9.7)

各支部の活動と現状

姫野正弘副理事長 大変お忙しいなかを広報座談会にご協力を頂き感謝申し上げます。広報は新しく神谷委員長となり、大変意欲的であり、みなさんに見て読んでいただける広報を作って行こうと張り切っており、ご支援をお願い申し上げます。今日は各支部長から支部の活動や困っている現状などについて忌憚のない意見を聞かせて頂き、組合本部が出来ること、改善できること等を含めてご意見を賜れば幸いです。

神谷博行委員長 広報座談会にご協力を頂きありがとうございます。最初に各支部の今年度の事業計画を含めて支部の現状を聞かせて下さい。支部順にお願いします。

遠藤清孝城東支部長 最近2社の脱退があり、現在 35 社になりました。私が支部長になってから 10 社くらい脱退があ



(姫野副理事長、神谷委員長)

り、支部運営上頭を痛めています。当支部はほぼ毎月例会を開いています。例会は講師を呼んで勉強するというより、本部関



係報告や委員会活動の報告が主となっています。大村理事長が総代会挨拶の中で支部の統合について発言されていますが、どういう風に進められるのか各支部とも関心があり、また、各支部の財政状況、繰越金、支部費の徴収方法などぜひお聞きしたいと思います。城東支部が当たり前と思ってきたことが、他支部からするとまだそんなことをしているのかと言われることがあるかもしれません。城東支部の常識が他支部の非常識ということがあるかもしれませんので、色々な話を聞かせて頂きたいと思います。そして、また改めて支部長会の機会を作って頂きたいと思います。

小橋秀一城西支部長 前回もお話した通

り、毎月役員会を開き、例会を隔月に開いています。例会は必ず勉強会ということで講師を呼んで開いています。例会は2時間半くらいで、1時間ちょっと勉強会、その後懇親会を行っています。毎月役員会を開いていますが、役員 15 名くらいで、例会にはだいたい役員プラス 10 名の計 24 名くらいで行っています。ここへきて当支部も 3 社ほど脱退するので 49 社になりますが、まだ統合については考えていません。ただそういう状況で他支部と合同で何か出来ないかと考え、西部支部さんと合同で何かやろうと話し合いの場を持って、10 月半ばに屋形船での懇親会が決まりこれから細部を詰めていきます。支部行事の費用は約半分を支部が負担しています。

若山満城南支部長

私ども支部は少人数で、こぢんまりしてきました。支部活動も排水対策が一服の状態になりましたので、何か核となる事業、結束できるテーマが欠如しているところがあるなかで、相変わらず親睦を主体に活動をしています。私が支部長になってから、大村理事長から支部統合という話がありました。国、地方でも行政改革をやろうという時代で、支部の統合という話は数年前からあったようですが、品川支部さんと真剣に統合を図るべく合同で事業活動を展開しようと積極的に交流を始めています。役員会



も合同役員会で、はじめから堅苦しいと意思の疎通が図れませんから、まずは支部同士のコミュニケーション、飲みニケーションが必要だろうと親睦を主流に、同じような規模の支部行事は一緒に進めていこうと活動しています。城南支部は少人数で余り活動が出来ませんでした。品川支部さんは支部員数も多く活発に活動していますので私どもも便乗させて頂き活動していこうと考えています。

藤田直人品川支部長 当支部はここ数年支部員の増減はありません。事業計画としては、これまで続けてきたパソコン教室を予定していましたが、私の個人的が忙しくな



って動けなくなり中止しました。いま若山支部長さんから話がありましたように、城南支部さんとの統合へ向けて動き出しています。既に合同で納涼会を行い、11 月初旬には合同で福井県の清川メッキさんの工場見学を計画しています。いま予約などの準備を進めています。忘年会も一緒にと思いましたが、城南さんは理事長のお祝いもあるので、今回は内輪でやりたいということです。統合については来年の総会で支部のみなさんの了解を得て、再来年の総会では統合した形になるよう進めています。

佐藤富幸大田支部長 支部員は 73 社と多い方ですが、規模もまちまちで、仕事の内容も多岐にわたり、何か行事を企画しても出席率は良いとはいえません。2 ヶ月に 1 回程役員会を開き 15 名ほど集まります。何か全体の行事をやろうとし

でも参加者は限られていますが、全体の総会、環境月間講習会では大体 45 名くらい集まります。

来ない人はまったく来ません。広報委員会で広報を作り発行していますが、私が支部長となって全てに行き



渡っていないようだ分かりました。いま排水集荷のブロック長のところに送ってもらい、ブロック長のところに排水を持ってきた時に配布することになっていますが、どうも定期的に排水を持ってこられない方がいるようです。折角良い広報を作っても全社に行き渡らないと意味がないわけです。ブロック長に配布をお願いしても負担になってしまうし、基本的に取りに来てもらうのが良いと思いますが、各支部はどのようにやられているのかお聞かせ頂きたい。

遠藤清孝城東支部長 私もかつてこの座

談会で同じことを申し上げましたが、その時西部支部さんが材料商社に配ってもらっていると言われたので、当支部も一部そういうことをしています。少しでも例会に来てもらおうということもあって、例会での配布が基本になっています。

西原敬一西部支部長 支部の賛助会員になって頂いている材料商社に地区内での配布をお願いしています。

佐藤富幸大田支部長 いま宅配便が便利になっており、部数がまとまれば安くできるがあると思います。各支部でやるより本部で考える余地があるのではないかと思います。私もかつて広報委員をやっていましたが、折角立派なものを作っても行き渡らないのはもったいないと思う。

神谷博行委員長 いまの広報の予算では無理ですから、配布方法については今後の宿題とさせて頂きたいと思います。

今泉好隆城北支部長 当支部は 8 月に 1 社廃業して 54 になりました。支部行事



としては、新年会総会、親睦旅行などを行っています。新年会は本部合同と支部独自で行っており、先日も幹部会にかけた



ら2回もやらなくていいんじゃないかと、今回は忘年会を主力に進めることを決めました。大村理事長が今年度、支部の再編を進めるという話があり、どういう形になるのか気になっています。広報は事務局に一括送られてきて事務局から各部長さんに配って全域に配布されています。

青年部会も今年は会員が5名入会され、活発な会になることを期待しています。

木下好雄中央支部長 私は14～15年間支部役員の空白期間がありまして、小嶋前支部長の後、急きょ私が支部長を仰せつかりました。そういう事情があつて前期からの若い役員さんからご指導を頂いて支部の流れを勉強しているところです。

私が支部長になってお願いしているのは、極力例会に出て頂くよう申し上げています。例会には講師を呼ぶ講習会を年3回く



らい、前回の講習会は出席率もよく好評でした。役員会は2ヶ月に1回、また常任理事と正副支部長の数名で月1回会合を持っています。

旅行会は1年おきに行っています。支部員数の減少に伴って昨年までの7部を6部に編成替えて広報は各部長に配布して頂いています。

私は結構年配者で、前期からの支部役員のみなさんとは親子ほど年代が離れており、若い人たちに色々聞きながらまとめていきたいと思っています。

理事長が言われた支部統合については支部内で話し合っておりません。難しい問題があると思いますが、今後の問題として考えていきたいと思っています。



永田一雄足立支部長 今年度に入り2社脱退して37社になりました。毎月何らかの行事を行っていますが、基本的に環境月間を含めて講習会を年3回行っています。その他旅行会、新年会、総会、忘年会が年1回あります。忘年会はもともと顧問相談役会でしたが、顧問相談役の方々が出てこないで全員の忘年会に変更しました。それぞれ出席率は比較的良好で30社は集まります。役員会は必要に応じて開催します。講習会は区から補助金を頂いて、会場費、講師謝礼は区から援助して頂きますが、食事はだめです。これは区の工業会に加盟しており、産業振興課から利用してくださいと言われる。支部統合については、足立区は区役所、下水道が1ヵ所で比較的良好でやりやすいので支部内からも話はないし、私もしていません。広報は一括私のところにきて私から副支部長へ届け、副支部長から部長へ持っていく大体届くと直ぐに配布しています。排水もきちんと出してくれますので空ビンと広報を渡しています。



青年部会も会員が増えて活発に活動しています。支部の人材育成の観点からも補助金を出して技能検定などの勉強会などを行っています。

先日、講師に石川進氏を呼んで葛飾支部さんと合同で講習会を行いました。葛飾さんから14~15名来て頂いて40名以上で講習会を行いました。こうしたやり方もいいかなと思っています。

小倉攻一葛飾支部長 神谷前支部長がよくやってくれたので、その後をやりにく

いのですが(笑)、事業計画は例年どおりで、三役会、例会、新年会、総会、レクリエーション、産業展などがあります。三役会は毎月開き例会は年4回、そのうち環境問題と健康は必ず1回ずつ取り上げておりその他は時節柄のテーマを取り上げています。例会の出席者は支部員の半数30社くらい。レクリエーションは保険手数料でバス代等を賄いますので、その分安く参加して頂いています。当支部は組合員さんが非常に協力的です。毎年、産業展に参加しており、その都度素晴らしい展示品を作るなあと自画自賛しています。今年度は委員さんが毎週火曜日に集まり、平均して10人は集まりますが作業に取り掛かっています。葛飾支部の特徴はこの産業展が支部の活性化の1つになっているのではないかと思います。私もかつて実行委員長になったことがありますが、はじめに何を作ろうか迷うのですが毎年何か新しいものを作り上げて、仲良く活動しています。



広報は事務局に送られてきて、ブロック長が取りにきてほとんど間違いなく配布されています。事務局を運営しているくらいですからあと5~6年は支部運営は大丈夫だと思います。特に神谷前支部長が“たんぼぼ計画”を進めてきて、ここ3年間支部会計は黒字を維持しています。当支部は銀行が支部費を徴収してきてもらえるので、そういう手間もありません。葛飾支部はまだ単独で数年は大丈夫だと思いますが、組合員の減少に伴いいずれ統合は考えなくてはならないと思います。

石田昌久向島支部長 今年度も前期に続いてもう1期続投させて頂きました。事業活動では産業展がなくなり、新年会、総会、環境月間講習会等です。

当支部も事務局を持ち事務局員が常駐していますの



でそれなりに費用がかかります。支部財政が苦しくなり、事務局をやめてみんなで仕事を分担するか、あるいは支部費を値上げしますかと聞いたところ、支部費を上げてもいいから、とにかくやってもらいたいという要望を受けて昨年度支部費を値上げさせて頂きました。お蔭様で前年度の決算がプラスに転じて、このまま多くの支部員さんがやめない限りはやっていける目途がつかしました。広報は事務局から各部長さんに配って頂く形になっています。

当支部もここ数年脱退のない年はなかったのですが、昨年は1社の脱退もありませんでした。ところが今年5月以降3社がやめて現在45社となりました。次のテーマで土壤汚染問題がありますが、廃業では会社の経営問題があるかも知れませんが、土壤汚染で土地が二束三文の価値になり、余りにもやめ方が悲惨だと思いました。70を過ぎて持ち家を取られて自己破産、経営が悪いと言われればそれまでですが、これまで一生懸命仕事をしてきて最後に70を迎えた結末がこれなのかと、そういうのを目の当たりにして、こんなことでいいのかとつくづく考えさせられました。

山田英佐夫本所支部長 毎年の支部行事は決まっていて、総会、環境月間講習会、

忘年会、新年会などですが、新年会は本部合同でやるようになり、その分予算が余りますので昨年は新年会の後、3月頃食事会を行い、今年は納涼会ということで行事が1つ増えました。例会はありませんが



こうした行事を同じ周期で行っていきます。広報は青年部に委託して配布しています。支部員数の減少に伴って2年前から委託料も値下げさせて頂きました。ご覧の通り、当支部は12支部の中で一番支部員数が少なく、このままいくと支部員全員が、支部長、副支部長、役員となって一般の支部員がいなくなってしまう。かねてより本部理事会でも支部のあり方について発言させて頂きましたが、何らかの形で解決しなければいけないと思っていたところ、本部で支部統合問題検討委員会を作るということで城南、品川、向島、本所の4支部から委員を出すという本部の話で、最初打診があったときに、私はこの問題は4支部だけの問題ではなく、もう少しオープンにして全支部で話し合った方がいいのではないかと話したのですが、取り敢えずは4支部でスタートしたいということです。

西原敬一西部支部長 当支部は地域が広く、支部員30社ですが、AからEブロックまで地域によって分かれています。そのブロック長が理事となって、理事会を1ヶ月ないし1ヶ月半くらいに1回開いています。いわゆる例会という会合はなく、新年会、総会があり、定期的ではなく旅行会などを行っています。広報は賛助会員になって頂いている材料商社2社に

配って頂いていますが、その他配布物はブロック会の時、ブロック長さんに渡して配布して頂いています。排水集荷もブロック長さんのところに集める形です。



最近の話題というか、計画の中でも、若い人に次の世代に向けて引き継いで頂くという志向をとっています。中間層の40代50代が少なく、30代後半もしくは40代前半、60代以上という構成になっています。支部の引継ぎに、若い人に出て来て頂くために出来るだけ情報公開しようということで、一昨年、昨年は“たんぼぼ計画”を進め、今年3年目になりますが、たんぼぼ計画で色々な活動の機会を頂いたので、出来るだけ参加して下さいということでご協力を頂き、2年目はいくらか理解されたのではないかと思います。今後はそうした交流が支部内に出来てきたので、そろそろ若い人に組合役員になって頂こうと、1つでも役を持って頂こうと進めているところです。

地域が広いこともあって支部の統合は考えにくい状況にあります。それより支部内のAからEブロックの中で、ブロックの統合をしようという動きがあります。あるブロックは3社、実質活動している会社は2社しかないブロックがあり、いま他のブロックと合同で活動してもらっていますが、ブロック統合の予備段階として問題がなければ統合していくことを検討したいと考えています。

土壌汚染問題について

神谷委員長 すでに石田支部長から話がありましたが、土壌汚染問題について支部内でこういう状況になっているというのをお願いします。

石田向島支部長 先ほどの話ですが、工場を止めるに当って、経営者が自己破産して所有権が銀行に移る。銀行は建物を壊してめっき液を処理し、更地にして土壌汚染を調査し汚染土壌を改良して土地を売却したいのですが、そうすると赤字になり、放置する以外にない。めっき液から全てそのまま放置しているところが何件かあります。区も我々もどこも手を出せない。仮にその会社が土壌調査をして汚染土壌を改良できる資金があれば資金を回して仕事を続けられると思う。国なり都なりが、業者を頼んで土壌をきれいにしてくれない限り、自分の力で処理するのは無理ですね。将来にわたり環境を良くするために土壌汚染対策法が出来たわけですが、反対に誰も処理出来ないから。そのまま放置されている。シアン浴の液を誰かが持っていったら大変なことになる。

山田本所支部長 土地があつて、会社が倒産して、担保を持つ銀行に所有権が移り、銀行は何かしなければいけないが、銀行も被害者で銀行の責任であると言にくいところがある。我々も銀行からお金を借りられなくなるかもしれない。

小倉葛飾支部長 銀行はめっき工場の土地を通常の担保価値よりかなり低くみている。今日葛飾区主催の異業種交流会があつて、土壌汚染土地に区に改良の手助けがほしいと話したが、区でもやりようがないと言っていた。

山田本所支部長 他人の土地だし、どこもやりようがない。

永田足立支部長 大体廃業される方は支部長のところへどのようにすればよいか聞きにきますね。色々と事情を聞き、今までだったら出資証券の清算で済んだが、現在は土壤汚染問題で簡単にはいかない。取り敢えず薬液などありますから工場を整理するまで組合員で1年残ってほしいとお願いしています。また土壤処理業者でこれだと思うところを紹介する。問題は廃業届を区に出すか出さないかで行き詰まる。廃業届を出したら土壤調査をして、汚染があれば浄化することになるが、当支部の事例では工場跡地に本人が住みたいという。67まで一生懸命働いてきて、支部にも協力して頂き、やめるに当って組合は何もしてくれないというのはしのび難い。出来る限り協力しているが、どこまで協力できるかである。少なくとも役所には一緒に行って交渉する。40～50年めっき屋をやって最後に自分が住むくらいは何とかしてあげたいと思う。いきなり区へ行っても相手にしてくれない。支部は長年工業会に入っており、区とのパイプがありますから、産業振興課、環境課へ行ったり、工業会で区議会議員との懇談会もあり、土壤汚染問題を説明して、議員からも議会で質問して頂けるといいうが、最終的にどうなるか。区も廃業届を出されると困ると思う。

山田本所支部長 これから住民の意識がどんどん高くなってくると思う。こうした決着は早く着けた方がよいと言ってあげた方がよいと思う。工場認可を受けていれば台帳に載っているわけで、後々の代にしろいつか必ず処分するわけで、なくなることはなく、負の資産をどこかで清算しないといけないことを話した方がよいと思う。

永田足立支部長 お金をかけられるものなら、土壤を浄化して売れる状態にした方がよいと話しているが、やめる方はどちらかと言えば経営が成り立たなくなつてやめるわけで、資金的に余裕がない。

山田本所支部長 そうなさいということではなく、これからもっと厳しくなるということをはっきりと言った方がよいと思う。問題を先延ばししても、後々まで残るわけです。

木下中央支部長 本部が各支部の状況を聞いて、強力な運動をしてほしいと思う。

神谷委員長 だいぶ時間も過ぎましたので、この辺で座談会を終了しますが、この問題は、近く行う支部長会で煮詰めて頂きたいと思います。本日は長時間にわたりご協力を頂きありがとうございました。

訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

鈴木昭壺様(訓練校講師)8月31日死去、74歳。30年以上訓練校指導員(講師)として多くの訓練生を指導された。告別式は近親者のみで行われた。

田村マツイ様(城東支部・(資)明正鍍金工業所田村祐司社長のご母堂)9月10日死去、74歳。告別式は12日正午から江東区北砂のカルチャーパビリオン平安北砂で行われた。喪主は夫の田村弘

10月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	土				
2	日				
3	月			城東支部	都知事表彰
4	火	広報委員会	大田支部	城北支部	
5	水	正副理事長会		中央支部	
6	木	環境委員会	品川支部・大田支部	目黒・世田谷地区	
7	金			葛飾支部	
8	土				
9	日				
10	月	体育の日			
11	火	都議会会派へ要望	城南支部	足立支部	
12	水		城西支部		全鍍連近代化三役会
13	木	技能教育委員会	城西支部・城北支部	西部支部	全鍍連環境対策三役会・常任理事会・財政調整委員会
14	金			葛飾支部	全鍍連広報委員会
15	土				葛飾区産業フェア(14～16日)
16	日				
17	月		中央支部・本所支部	品川地区	
18	火	訓練校工場見学		向島支部	
19	水		向島支部	本所支部	
20	木				全鍍連技術三役会・関東甲信越静ブ会議
21	金		西部支部	葛飾支部	向島支部環境月間講習会、全鍍連東北陸ブ会議
22	土				
23	日				十日会ゴルフ大会
24	月			蒲田・大森地区	日本硬質クロム工業会秋季研修
25	火	支部長会	城東支部・葛飾支部	城西支部	
26	水				全鍍連総務委、健保理事会
27	木	監事会	葛飾支部		
28	金			葛飾支部	城北、大田支部環境月間講習会、基金選挙代議員会
29	土				
30	日				
31	月		足立支部		

(役員会、委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

10月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 B:17:00～20:00 C:17:00～20:30)				
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)
4	火	A	プラスチック上のめっき①(めっき法)	不導体の金属化、プラスチックの種類、ABS樹脂のめっきの密着機構等。 奥野製薬工業(株) 佐藤 一也
		B	プラスチック上のめっき②(めっき法)	めっき工程、アニーリング、プリエッチング、めっき工程、品質管理、エンジニアリングプラスチック 奥野製薬工業(株) 佐藤一也
7	金	A	合金めっき③(めっき法)	防食用、機能性合金めっき(耐摩耗性、電子部品用、磁性材料用等) キザイ(株) 丸田正敏
		B	プラスチック上のめっき用途(めっき法)	プラスチックの金属化の用途(装飾、電磁波シールド、導電性、防菌性など) 訓練校教頭 神戸徳蔵
11	火	A	後処理②(めっき法)	水洗について、多段水洗方法と向流水洗方法の比較とその効果等 (株)日本システムエンジニアリング 山崎竜一
		B	めっき液分析①(材料)	化学分析の基礎、めっき液分析の注意点と器具の取り扱い方、中和滴定等。 東京都鍍金工業組合環研 斉藤弘幸
14	金	A	後処理③(めっき法)	水洗について、水洗方式と使用する水量の比較と洗浄効果等 (株)日本システムエンジニアリング 山崎竜一
		C	実技(基本1)	めっき液の分析：中和滴定 東京都鍍金工業組合環研
18	火		工場見学会(9:00～17:00)	別途実施計画による。 訓練校教頭 神戸徳蔵 環研
21	金	A	めっき液分析②(材料)	キレート滴定法の理論と実際及び実験の注意点。 東京都鍍金工業組合環研 斉藤弘幸
		C	実技(基本2)	めっき液の分析：キレート滴定 東京都鍍金工業組合環研
25	火	A	パルスめっき(特殊めっき法)	パルスめっきの基礎と応用、被膜特性、各めっきへの適用例等 元(独)産業技術総合研究所 尾形幹夫
		C	実技(基本3)	ニッケルめっき液とシアン化亜鉛めっき液の分析、比産出 東京都鍍金工業組合環研
28	火	A	複合めっき(特殊めっき法)	目的、概要、分散剤の種類、用途、実用例、浴管理、前処理等 (株)ヒキフネ 小林道夫
		C	実技(基本4)	酸化還元滴定(クロムめっき、すずめっき液の分析)、簡易分析 東京都鍍金工業組合環研

※聴講料は1科目クーポン券3枚、または7,500円です。

＜特別寄稿＞

シベリア鉄道の旅

組合相談役 江原 猛二



今回シベリア旅行の目的は「ロシアの国内事情である」

1. ペレストロイカ後のシベリア状況。
2. 東洋貿易に対しての計画と進行状況。

日本国内のシベリアに対するイメージは相変わらず暗い。若者は経済におぼれて、無関心の場合が多い。政府も将来に関する、ビジョンは黙秘している。

「ペレストロイカ」後のロシアは想像以上に変身した。しかしシベリアに対する情報は少ない。日本憲法に近い改革が大胆に施行されて、国民は明るく、行動的になった。ロシア政府の根底精神は、日露戦争当時の目的に、変わらない宿命がある。ロシア人に尊敬する人を尋ねてみた、異口同音に(ゴルバチョフ)と答える。共産政策の官憲取締りで自由が束縛された。現在は解放されて自由であると青年は喜んで語られたのが印象的であった。

プーチン政策の平和宣言、観光と資源活用でロシア経済の安定を図る計画に大いに共鳴し、自由で意欲的にエネルギーの行動が見受けられる。日本人のシベリア人に対するイメージは払拭しなければならない。見聞の実例を私なりにお知らせする。

西シベリアの資源について「ノボシビルスク」ロシア新都市、「アカデミー」工業都市、日本の科学万博のモデルにもなった近代都市、オビ川、ロシア第三の大河の水利を活用して、将来都市計画は『ウラル』資源の開発が主体である。

カザフ、コザツク騎兵、発祥の地であるが、馬を見ることもなく、自動車世界、日本の中古自動車が半数、故障がないので大好評、その他の外車、新車と同じ値段であれば日本の中古車を買うそうである。土地が広いので車なしでは生活が出来ない。馬のいないのは管理が大変で不経済であるらしい。近代文化はシベリアの奥地にも普及している。

町の中央にレーニン広場がありシベリア最大のオペラハウスがある。その前にレーニンと兵士三人のモニュメントがあり右側に男女の立像がある。男性は火炎、産業の象徴、女性は樹葉、農業を象徴している。レーニン像は民衆を威嚇している新旧象徴のモニュメントであると、説明があった。

市民は、エネルギーで活発であり明るい感じがした。体格は日本人より大きくスマートで、若い女性はバレリーナが歩いている感じがしてセクシーで美しく魅力的である。経済も安定している様子が伺える。大きなマーケットの見学で女性パワーに圧倒させられた。ほとんど女性が仕切っている。男性は助手的存在であるのには驚きだ。物資は豊富であるが、果実は輸入が多いようである。雑貨は百元ショップなみであるが、国民生活習慣性もあるものと思う。

気候は日中は日本並みの暑さ、夜半から朝は涼気がただよう。高級ホテルでも冷房設備はなく、扇風機のみ、日本製家電製品は少ない。

シベリア鉄道二千キロ、イルクーツクまで試乗した歴史ある寝台車は完備しているが、年代が知れる。列車は登りは遅く下りは速い。SLの様で時速四十キロ弱の走行である。灌木と草原の広野は無限に続く。小さな駅の付近にログハウスがちらほら見えるが、動物は不思議に見当たらなかった。

停車駅には大きな工場があって、引き込み線がある、資源の積み込みらしく貨車が非常に多くみうけられ、資源地域であるらしく感じた。短時間の停車、満員の寝台車から早朝下車した。ロシア人にしては小柄のローカルガイドが気持ちよく迎えてくれた。

ひんやりした涼しさに避暑地に到着した感覚であった。東シベリアの中心都市歴史あるイルクーツクの駅は予想外立派である。

ホテルにチェックインして早速バイカル湖のクルーズ、行きかう自動車は殆ど日本車、中古車は価格も適切で故障がないので好評であるとのことである。乗船場には魚の丸焼きが沢山露天で販売されていた。塩味が強く魚の味はわからなかったが、バイカル湖の名物だそうだ。

帰途日本人墓地を参拝したが、草むらの中に墓石が埋もれていて侘しかった。その昔日本人の商魂たくましい意欲に感動した。

1600年シベリアの中心都市として栄えたこの都市には多くの歴史がある。ギリシャ風やロシア正教、教会が歴史を物語っている。町の中心はフランス風の建物が立ち並び、ミニパリーで知られている。町の様相はヨーロッパスタイルで貴族社会の名残もある。デカブリスト、貴族青年の革命記念館は大切に保管されていた。



(イルクーツクの家族)

日露戦争、ロシア革命、世界大戦と時代は変わり、自由国家が実現するとは誰も気づかなかったことで、誠に喜ばしき限りである。

資源豊富な東シベリア、資源を満載した貨物列車が沢山停車していた。鉄道能力が不足しているのではないかとも思ったりした。

飛行機で3時間40分のフライトでウラジオストックに着いた。空港から町まで約50分で到着、西洋風の町は、エキゾチックである。

11年前は軍港として一般の入場は禁止されていたが、現在は貿易港に変身して、コンテナ埠頭が林立している。ロシアの東洋進出計画は明らかで、親睦の絆は日ごとに増大している。日露の交易は益々盛んになり、ロシア第一の貿易港になることは明らかである。その証として町の自動車が証拠である。日本の中古自動車が95パーセントのシェアを占めているのは驚きだ。広大な土地であるから自動車は絶対の必需品である。故障がないのと適切な値段が最高に受けている。将来は経済成長して新車も自由に購入して欲しい。

港広場の高台に日露戦争前、在留邦人が6000人も住んでいた地区がある。サンフランシスコに良く似た地区で、建物は当時から洋風であったそうだ。現在は日本人町はなく、本願寺跡にモニュメントがあるのみだが、先輩の商魂を偲ぶことが出来て感激した。

シベリア戦争の時は日本軍隊が30万人もの出兵した歴史がある。

日本人のシベリアに対するイメージは相対的に暗い、21世紀は過去の体験を大切に両国の発展を祈念し、旅の感想報告とする。

2005年8月15日 戦後60年記念の旅にて。

中国一人旅

川口 登

ドイツ一人旅で組合広報に掲載させて頂いて早 30 年余り、この度“中国一人旅”を投稿させて頂きました。今回の目的は、中国めっき工場見学、めっきのルーツ探して、博物館に行く事。8月11日(木)から16日(火)の6日間、成田から厦門まで飛行機、厦門から福州まで5時間のバス、成田午前10時20分に発ち、5つ星西湖大酒店に着いたのが午後6時、これで1日目が終了。

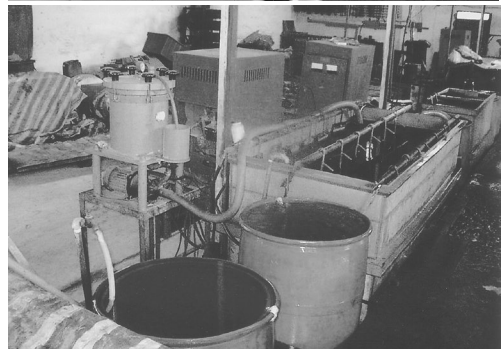
12日、2日目通訳をお願いした英語、日本語の先生、経験者の揚萌夏さんの案内にて、西湖畔、福州博物館へ、中国初の宇宙飛行士帰還、黒焦げのカプセル先端、思ったより小さい宇宙服等が展示してあった。子供達が大勢両親と共に見学に来ていて、どこの国の子供も同じだと感じた。南宋時代流金銀鏡盆のような、日本での「中国、国宝展」「新シルクロード展」「中国美の十字路」等々めっき、象眼、関係製品が数多く出品されていた。ホテルに帰ると留言(MESSAGE)が室内にあり、日本語学校で、中国の人に日本語を教えている中野英夫氏より夜食の招待、学校近くに19番ホールという日本人の経営する喫茶店、福州には200名程の日本人がいて会も作っているそうで、集まる場所、そこで勝嘉貿易社長梅津友己氏より“TOSHIBA” 管理部長の黄滔氏に連絡を連絡を取って頂き、明日のめっき工場を見学させて頂ける事になった。

13日、3日目午前9時揚氏と黄氏を待ち、黄氏の車で30分程走った郊外に壁に囲まれた6棟程の建物が建ち並んだ所に着いた。小雨が降り始め、一番奥の胸は前処理場で、最初に福州市電鍍廠電鍍



(筆者)

部と書いてある建物に入るとレンガを積み重ねた上にコンクリートで補強した程度のものであり設備も古く、日本の下町で現在細々と開業している会社より古く思われた。従業員は10名程、樹脂素材の写真盾に銅、ニッケルめっきを施していた。



2棟目に先に入って写真を撮っていた



ら、見学は良いが、写真はやめてほしいと言われ、2枚だけ撮る事が出来、15名程の従業員で、亜鉛ダイカストの装飾用王冠、心鍍素材、鉄素材に銅、ニッケルめっきを施していた。3棟目、事務所に黄氏と入ると、老女がいて、この会社は台湾人の経営者、眼鏡のフレームめっきであり、社長が留守であるので、見学する事は出来なかった。中国でのめっき工場は台湾、韓国人の経営者が多く、2万社程と聞いている。工場も見学させてもらうのも難しいとの事である。排水処理は全会社一括にて他の場所にて行っているという。黄氏と別れ、楊氏と別の工場に的士(TAXI)を走らせたが、残念な事に移転してしまっていた。

14日、4日目、今日は日曜日、工場はほとんど休業の為、街内見学、ホテルも北京行汽車が出る改装した福州駅近く金叶大酒店に移り、温泉公園とにかく広い。中国のマッサージ、百年も続いていると言う食事所“待望楼”での食事。

15日、5日目、駅近くの朝市、生きたニワトリをカゴに入れ、売れてからしめる。豚肉の雑切りの計り売り、日本では見られない光景である。ライムに似た“龙眼”という果物が旬、外皮を剥くと龍の目のようであると、甘く美味しい。午前10時20分福州空港から上海虹桥に1時30分到着、的士で40分、街中心より離

れ、日本行き浦東空港には1時間位かかるという銀湖湾酒店、団体客相手のビジネスホテル、料金が安い一泊だけであるので良しとした。上海にはめっき工場はなく、今日午後と明日午後の4時までの空き時間、山東省、莒州、招遠。尤錫等には建設中、現在稼働中の工場はあるが、この空き時間では無理という事であるので、通訳の唐秋華氏と人民広場にある上海博物館へ行く。古代中国の青銅器等が展示しており、日本語の説明本によると紀元前21世紀～16世紀にはまだめっきらしきものはない。見学中唐氏が肝臓癌で父親を入院、明日手術だと言う。そのまま見舞いに行く事になった。日光病院と言う大きな総合病院、意外な展開になった。

16日、6日目、4時5分上海浦東空港発まで、6時30分ホテルをチェックアウトし、的士で病院へ、昼食と済ませ、病院に戻ると、手術は成功し終わったと言うので、午後1時30分病院を後に的士で1時間30分掛け空港へ。成田空港着8時40分、帰宅午後10時過ぎであった。慌ただしい6日間ではあったが、何か充実感があり、幸せな旅であった。

今の中国には生活感があり、皆精一杯生きている。活動全開、これからオリンピック、万博に向かった前進のみであると感じた。貧富の差、外人に対する差別(税関での対応、日本の税関職員も同様)課題は多い様だが、小生には良い国である。

東京都職業能力開発協会 による研修のご案内

同協会では、下記のような研修を実施しています。当組合は協会の会員となつていきますので、非会員より安い料金で受講でき、かつ、早い時期に申込受付を開始してもらえます。研修内容や申し込み方法等、詳細についてお知りになりたい方は組合本部事務局前田(03-3814-5621)までご連絡下さい。(会場は、「中堅リーダー養成研修①」以外は、いずれも千代田区飯田橋 3-10-3 東京しごとセンター地下講堂)

▽管理職(課長)実践研修

日 程 ①平成 17 年 11 月 1 日(火)～2 日(水)9:30～16:30

②平成 17 年 11 月 9 日(水)～10 日(木)9:30～16:30

受講料 1 名 20,000 円(テキスト代を含む。
非会員 25,000 円)

定 員 各 40 名

申込開始日 9 月 20 日(火)(申込期限～10 月 11 日(火)(先着順定員になり次第締切)

講 師 東京都職業能力開発協会専任講師
河野樹夫氏

▽中堅リーダー養成研修

日 程 ①平成 17 年 11 月 14 日(月)～15 日(火)9:30～16:30

(会場は中央区銀座 2-10-18 東京都中小企業会館 8F 会議室 C)

②平成 17 年 11 月 17 日(木)～18 日(金)9:30～16:30

受講料 1 名 20,000 円(テキスト代を含む。
非会員 25,000 円)

定 員 ①コース 36 名②コース 40 名

申込開始日 10 月 3 日(月)〔申込期限～24 日(月)(先着順定員になり次第締切)

講 師 東京都職業能力開発協会専任講師
古川勝壽氏

▽管理者のための実践人事考課入門

日 程 平成 17 年 11 月 16 日(水)9:30～16:30

受講料 1 名 10,000 円(テキスト代を含む。
非会員 15,000 円)

定 員 30 名

申込開始日 10 月 5 日(水)〔申込期限～26 日(水)〕(先着順定員になり次第締切)

講 師 東京都職業能力開発協会専任講師
河野樹夫氏

めっき部会 10 月例会のご案内

6 価クロム代替処理の最新動向と評価
一亜鉛めっき,アルミニウム・アルミニウム合金を中心として一

主 催 (社)表面技術協会めっき部会

日 時 10 月 20 日(木)13:30～18:00

会 場 東京理科大学「森戸記念館」第 2
フォーラム室

[東京都新宿区神楽坂 4-2-2,

TEL035225-1033(1F 受付)]

交通機関:JR 中央/総武線「飯田橋駅」神楽坂口下車徒歩約 10 分

【講演】

1.「非鉄金属に対する 6 価クロムフリー技術の開発動向-Ai,Mg を中心として一」

(株)日鉄技術情報センター 前田重義

2.「三価クロム系化成皮膜の評価とその問題点」オムロン(株) 伊藤貞則

3.「亜鉛めっき 3 価クロム化成皮膜処理剤」
タイホー(株) 千葉昌吾

参加費 めっき部会会員 1 社 2 名迄無料,
会員外 1 名 3,000 円[テキスト代,消費税含む]

定 員 60 名先着順(部会会員優先)】

問合先 (社)表面技術協会めっき部会(電話
03・3252・3286 担当上野)

全中調査結果

「下請中小企業の最近の動向」

全国中小企業団体中央会は、親企業の海外移転、コストダウン要請、選別、集約化、海外からの部品調達、原材料価格の高騰など厳しい状況が続いている下請中小企業の最近の動向を把握するため、自動車、電気等の下請分業体制を構成する9団体（ダイカスト、プレス、メッキ、産業用機械、輸送用機械(自動車主体)、電気部品(家電主体)、金型、鋳物、ビルメンテナンス)を対象に、下請中小企業の(1)最近の動向(2)今後(3ヶ月後)の見通し(3)原材料等の価格上昇の影響(4)景気回復の実感(5)設備投資の見通し(6)最近の親企業の動向等について書面調査及びヒアリング調査を実施し、調査結果を取りまとめ、8月2日「下請中小企業の最近の動向」として発表した。概要は次の通り。

1. 景況

景況感は、「好転」した企業は4業界、「横這い」が3業界、「悪化」が2業界（メッキ、ビルメンテ）、「悪化」は前回(16年12月)と比べ1業界増加した。受注量の「悪化」が2業界（メッキ、ビルメンテ）、単価は5業界（メッキ他）で「下落」、採算は鋳物業界を除く8業界で「悪化」または「横這い」となっている。

<主なコメント>

ダイカスト：情報家電などではやや悪いが、自動車の好調で景況感好転。原材料費のアップ分を価格に反映し、単価上昇。

金属プレス：電機関連の景況感は、企業によってバラツキがある。自動車関連は海外物件があり、受注量増加。電機は海外移転の傾向。

メッキ：企業の景況感は、原油高、原材料価格や輸出環境に左右される。デジタル家電等の在庫調整により、受注量減少、自動車は好調。素材価格、コスト上昇を受注単価に転嫁出来ず、単価下落。なお、固定費削減を進めている企業は、採算、資金繰りの改善に寄与し、同業者間でも格差がみられる。

輸送用機械：中国、米国向けを中心に受注量が増加している。一部の部品では値下げ要求が続いており、単価下落。

電気部品：単価は材料価格上昇をすべて反映出来ないため、値下げと同じ状態にある。金型：受注量は企業の対応により増加、減少の双方に分かれている。国内外との競合激化のため採算悪化。

鋳物：受注増に伴う稼働率上昇、残業時間増加等がみられ、景況感好転。ユーザー業界（産業機械、自動車）の好況により、受注量増加。原材料のコスト増分を価格転嫁することで単価も上昇。

2. 今後3ヶ月後の見通し

3ヶ月後の景況見通しは、「横這い」が8業界（メッキ他）、「悪化」がビルメンテ1業界と、「好転」を予測した業界はなかった。

今後3ヶ月で、受注量の「増加」を予測する業界はなく、単価についても全業界で「下落」又は「横這い」を予測しており、採算が「好転」するとの予測も皆無であった。<主なコメント>

ダイカスト：昨年、今年前半と好調が続いており、景況感に変化なし。原材料費のアップも一服。

金属プレス：自動車関連は受注量増加、電機関連は中国市場に移転の見込み。

メッキ：原材料価格が落ち着けば景況改善が見込まれる。デジタル関連は、新製品による受注増が見込まれる。自動車関連はメーカーや地域によって格差がある。

輸送用機械：景気拡大局面が持続する見込み。

電気部品：採算面は厳しい状況が続く見込み。

金型：国内企業の競合のため、受注量は減少見込み。

鋳物：当面、受注環境及び原材料の調達環境に大きな変化は見込まれない。

3. 原材料等の価格上昇の影響

原材料価格の上昇は「10%未満」が1業界、「10～30%未満」が5業界、「30～50%未満」が2業界、具体的影響は「採算の悪化」が7業界、「原材料調達の悪化」が2業界、「資金繰りの悪化」が2業界であった。

価格転嫁がどの程度出来ているかについては「20%未満」が1業界、「40～60%未満」

が1業界、「60～80%未満」が4業界、「全く出来ない」が2業界であった。

親企業の対応状況については、「価格転嫁に応じる姿勢はあるが、一部に止まっている」が7業界、「価格転嫁に応じる姿勢は見られない」「今後も価格転嫁は全く出来ない」も1業界あり、価格転嫁に対する親企業の対応は依然厳しい。

<主なコメント>

ダイカスト：原材料は発注先支給又は公表価格スライドがほとんど。一部の企業で価格交渉を必要とするが、金型用鋼材価格の転嫁が難しい。

メッキ：下請依存型の小規模企業ほど経営が悪化。ただ、固定費を削減し、経営基盤を強化している企業もある。

輸送用機械：今回の相次ぐ価格上昇は、機械関連大手メーカーも概ね受入れているので下請部品メーカーの材料費値上げ転嫁も相当程度容認してもらっているが、一部取引先には転嫁が実現出来ず、その分については採算悪化は避けられない。

電気部品：原材料の価格上昇を納入価格に反映されるのが2ヶ月位遅れるため、その間値引きのような現象になる。

金型：材料比率は10～20%であるから、ケースバイケースで値上げに向けている。

鋳物：価格転嫁が100%出来なければ採算の悪化・資金繰りの悪化となる。地区・ユーザーによって多少の差はあるものの、総じて逆選別が可能な受注環境から価格転嫁は比較的円滑に進捗。

ビルメンテ：今後、材料(ワックス、洗剤等)の価格が上がっても、受注環境が悪いことから価格転嫁の出来る見込みはない。

4. 景気回復の実感

景気回復の実感が「ある」と答えたのは4業界、「ない」と答えたのは4業界であった。(無回答1)「ある」と答えた業界は、受注量が増加していることによるもの。「ない」と答えた業界は採算面の改善が見られないというもの。

<主なコメント>

ダイカスト：公害対策として車両の軽量化でダイカストの採用が増加し、受注量が増加し

ている。

メッキ：設備投資の意欲が高い。

産業用機械：最悪期に比べ、仕事量の増加は見られるものの、先行きは相変わらず不透明であり、材料高、原油高が直接、間接に経営を圧迫している。

輸送用機械：中国・米国向け輸出の高水準が持続しており、受注量急増。

電気部品：受注量と価格の両面で、景気回復の実感なし。業種・業態によって格差を感じる。

鋳物：ユーザー業界が好調で受注量が増加。

ビルメンテ：誰にでも参入できうる業種であり、競争厳しく、請負金額は下落、受注量も減少。

5. 設備投資の見通し

設備投資の見通しについては、「増加」が4業界、「横這い」が3業界、「減少」が1業界であった。(無回答1)「増加」は受注増に対応するための増産設備、長年の投資抑制から設備老朽化も限界となり設備更新を行うもの。「横這い」「減少」は受注等に対する不安感から慎重になっているもの。

<主なコメント>

ダイカスト：受注量が多く、また最新の設備が求められる仕事が増えている。

メッキ：老朽化を食い止める水準までではないが、設備の若返りを考えている企業が多い。

輸送用機械：受注量増加に対応するため設備投資も増加見込み。

電気部品：受注量が増えない。収益が厳しい。設計変更がいつ行われるかわからないことから、設備投資は減少見込み。

金型：企業の対応により増加と減少の2極分化している。

鋳物：受注増に対応。採算好転による設備の更新。景気の先行き後退感の減少から設備投資は増加見込み。

6. 最近の親企業の動向

親企業の最近の顕著な動きとして、「コストダウン要請」は6業界で、前回同様、親企業からの要請が強い。また「海外からの部品調達」が前回対比2業界増加し5業界と顕著である。なお「下請企業の選別・集約化」は前回対比3業界減少し4業界、多くの業界で選

別・集約化が進んでいると思われる。

<主なコメント>

ダイカスト：比較的静かな動き。

メッキ：特に系列外からの部品調達が多い。
その分ニーズが高い。

輸送用機械：相変わらずのコスト低減要求がある(年間2～5%のコスト低減)。

金型：「まず海外から」が最優先。

鋳物：自動車業界等からは依然コストダウン要請が続いている。

7. 下請中小企業の対応策

「経費削減」「新規受注先の開拓」がいずれも6業界と前回同様多くの業界で実施されている。また「親企業への依存度引き下げ」「合理化・省力化投資」(いずれも5業界)が前回対比増加しており、顕著な動きである。

<主なコメント>

ダイカスト：ISO(品質・環境)の取得は必須になっている。また海外価格を知る上でも海外での物づくりが加速している。

メッキ：R&D(研究開発)やメーカーと試作まで打合せできる企業も増えてきた。

輸送用機械：価格競争力のある開発商品の売上比率を高め、下請依存体質を改める。

金型：「設備の新鋭化」と「じり貧」に2極分化している。

鋳物：収益の確保・増加のため、実行できる施策をすべて実施している。

8. 下請中小企業が目指す方向とその対応策

「脱下請企業を志向する」と回答したのは4業界(輸送用機械、電気部品、金型、ビルメンテ)、「下請企業として生き残りを志向」と回答したのも4業界であった。その対応策として、「技術革新に取り組む」「親企業との情報共有化」「新規受注先の開拓」を上げたのが3業界と多かった。

<主なコメント>

ダイカスト：ダイカストで最終製品は難しい。
自社製品を指向して挫折した企業が多い

輸送用機械：具体的対応策として、開発要因の増強と実験設備の充実。

電気部品：脱下請企業を志向し、下請部品製造の技能を生かして部品メーカーとして発想転換を図る。培った技術を応用した自社商品の開発。

金型：同じ仕事は30年続かない。転換が必要とされるが、新事業への転換は難しく、模索中。

鋳物：ユーザーのニーズに適切に対応し、本業に徹する。また下請としてのリスク分散のため新規先の開拓を実施している。

9. 最近の円相場・株価・原油高騰の影響

最近の円相場・株価・原油高騰が親企業の動向を通して下請企業にどのような影響を与えているかを調査した。円相場・株価については現状の水準程度であれば大きな影響はない。原油高騰については電力費・輸送コスト等、製造コストに影響あり、経営圧迫の要因となっている。

<主なコメント>

①円相場の影響

ダイカスト：海外生産部分の計上はドルでは同じでも円では少なくなる。

輸送用機械：110円程度の水準であれば輸出採算も良好。

金型：特に影響は大きくない。

②株価の影響

ダイカスト：株価の影響の少ない経営になっている。但し年金運用での影響はある。

③原油高騰の影響

ダイカスト：電力量のアップとなり経営を圧迫している。

輸送用機械：原材料、工具等の副資材の値上げの動きが採算悪化につながる。製造原価に多少影響あり。

電気部品：製造原価に多少影響あり。

金型：これからどうなるのが不安。

鋳物：輸送コストのアップ。



アルマイト皮膜処理技術

(日刊工業新聞 05.7.26)

スズキは 25 日、ピストンリングなどの表面処理用に、高効率で高精度のアルマイト(酸化アルミニウム)皮膜処理技術「ハイパー・アルマイト」を開発し、軽自動車のターボ車の一部に採用し始めたと発表した。今後、4 輪車や 2 輪車、船外機などの部品処理に採用を広げる予定。ハイパー・アルマイトは交流に 10 キロヘルツ前後の高周波直流を加える独自の新電解法。アルマイト皮膜厚のバラつきを従来の半分以下にした。ピストン 1 個の処理時間も 20 分から 5 分に短縮できる。スズキはターボ車のピストンなど高負荷を受けるアルミニウム部品にアルマイト処理を施し、耐食性や耐久性を高めている。外注していた同工程を、今後はハイパー・アルマイトを用いて順次内製化し、品質と生産効率を高める。

神鋼の抗菌メッキ

(日刊工業新聞 05.7.28)

神戸製鋼所は 27 日、抗菌メッキ「KENIFINE(ケニファイン)」に、養魚受精卵のふ化率を低下させるミズカビの発生を抑制する効果があることを確認したと発表した。静岡県水産試験場でニジマスの受精卵を同メッキ処理したステンレス網と、未処理の網に乗せて試験したところ、平均で発眼率に 8.3 ポイントの差があった。薬事法改正に伴い 8 月から全面禁止となる防止剤「マラカイトグリーン」の代替技術として期待している。

ケニファインは神鋼が 01 年に実用化した特殊ニッケル合金による抗菌メッキ技術。ニッケルに有害性の低い非金属元素と還元性元素を加え、吸着した水膜に抗菌性イオンを溶出して滅菌する。

金属ボタンに古着感

(日刊工業新聞 05.7.28)

福井電化工業(千葉縣市川市 福井順子社長)は、使い込んだ風合いの装飾を施す金属ボタンメッキ加工を始めた。古着感を出したいジーンズなどに使うとクラシカルなイメージが出せる。すでに大手服飾商社を通じて国内外のブランドメーカーで採用され始めており、同社ではメッキ事業の収益向上策の一つとして、デザインの提案力などを強化していく。

始めたのは「ストーンウォッシュメッキ加工」で、ストーンウォッシュ加工を施したデニムなどに使うと、古着感を損なわない。レトロ風のデザインのシャツやパンツにもマッチする。加工はスズメッキ、または銅メッキを施した金属ボタンに職人がまばらな塗装をする。手作業で塗装するため同じデザインにはならず、カラーパリエーションが豊富になる。実際に塗装がはげたようなボタンの表情が出せる。同社は機能メッキや表面処理加工を手がける。中国などアジア勢の台頭を背景に、数年前から価格競争になりにくい付加価値の高い装飾メッキのデザイン開発を強化している。これまでに、サビ状の装飾を施したボタンメッキなどを開発している。

ニッケル複合メッキ微粒子含有量 60%向上

(日刊工業新聞 05.8.5)

東京工業大学大学院の佐治哲夫教授は、シリコンカーバイド(SiC)やダイヤモンドなどの微粒子を従来の約 3 倍量含有できるニッケルの複合メッキ技術を開発した。特殊な界面活性剤を用いて独自ノウハウによりメッキしたもので、これらの微粒子の含有量を 60%程度まで高めることに成功した。従来のメッキ技術では「約 20%が限界だった」(佐治教授)という。含有量を高めることにより、精密工具などの耐摩耗性のほか、耐腐食性などさまざまな特性を高めることが期待でき、耐摩耗性では従来より約 5 倍性能が向上したという。

建築用ドリルネジ 3 価クロムメッキ採用

(日刊工業新聞 05.8.16)

ヤマヒロ(大阪府河内長野市、木全俊一社長)は、主力製品である建築外装用ドリルネジ(商品名、ジャックポイント)のメッキについて、従来の六価クロムから三価クロムに全面切り替えした。欧州の特定有害物質規制(RoHS)が施行されるのを前に自動車や家電向けのネジは脱六価クロムが進んでいる。このため同社は「建築用では業界に先駆けて(同規制に対応した)出荷体制を整備した」としている。同社は建築用ネジの専業大手で年商約 27 億円。環境への負荷を抑えるため 03 年から三価クロムメッキの導入に取り組み、耐食性や機械的強度などの実験を繰り返した。このほど外注先を含めて三価クロムメッキによる表面処理体制を整えた。まず、総売り上げの 70%を占める主力品種であるジャックポイントについて切り替えることにし、標準品だけで 450 種に上る全在庫品を三価クロム品へ置き換えた。ジャックポイント以外の製品も来年 3 月までに全面切り替えする。

光触媒で英・独と共同研究

(日刊工業新聞 05.8.23)

関東学院大学発ベンチャーの表面工学研究所(横浜市金沢区、大野功一社長＝関東学院大学長)は、近く光触媒による表面処理技術で英国とドイツの大手化学会社とそれぞれ共同研究契約を結ぶ。従来の国内中小企業との共同研究とはケタの異なる数千万円規模になる見込み。基礎研究を実用化につなげる試作開発を手掛ける公的組織、ドイツ新材料研究所とも連携を検討している。これに伴い、設備資金を調達するため、資本金を 600 万円から 1600 万円に増やし、株式会社化した。

表面工学研究所は関東学院大の本間英夫教授の技術を基にしたエレクトロニクス、環境関連の表面処理技術の大学発ベンチャー。02 年に関東学院大と同大系列の関東化成工業(神奈川県横須賀市、福原國晃社長)の出資で

有限会社で設立され、初年度から黒字経営を続けている。今回の資本増強後の出資比率は関東学院大 51%、関東化成工業 49%で変化はない。表面工学研は中小企業から 1 件 100 万～200 万円程度の受託研究が主力で、現在は 25 件を手掛ける。光触媒による表面改質を使ったプラスチックメッキが特徴で、最近はおキシライド電池の活性物質生成法でも注目されている。

特殊鍍金化工所 3 元合金メッキ開発

(日刊工業新聞 05.9.5)

特殊鍍金化工所(東京都三鷹市、柴太社長)は、磁性を帯びず、耐食性に優れた 3 元合金メッキ「TM-x」を開発した。コネクターやマイクロ波関連部品向けに、ニッケルメッキや銀メッキの代替となる高機能メッキとして普及させる考えで、このほど本格展開を始めた。またクロメートフリー、鉛フリー化で欧州特定有害物質規制(RoHS)をクリアしており、環境面からも採用をアピールしていく。

特殊鍍金化工所が開発した 3 元合金メッキは、従来のスペキュラム合金メッキの銅、スズに亜鉛を添加している。亜鉛を加えることで高耐食性を実現。中性塩水噴霧試験で、腐食発生までの時間が銀やニッケルメッキは 120 時間程度だったのに対し、「TM-x」は 360 時間という結果を得た。また、硬度はニッケル並みのビツカーズ硬さ Hv600 と耐摩耗性があり、合金比が一定でピンホールも少ない。被膜が削れた場合も機能は変わらず、「膜厚が薄くてもメッキ性能は高い」(柴太社長)のが特徴という。3 元合金メッキはメッキ性能を維持するための溶液管理が難しく、事業化の例は少ない。同社では温度や比重、金属濃度などきめ細かなメンテナンスを自社内で行うことで実用化に成功した。すでに試験的な採用が始まっており、今後は高周波コネクター向け加工を中心に新たな需要開拓を進め、本格展開していく。

葛飾支部の巻 水元公園

休みを持て余していることはありませんか？特に計画のない日、そんな日は葛飾支部内にある水元公園をお勧めします。

東京都の北東部の端にある、都内唯一の水郷地帯で、面積は都内で葛西臨海公園の次2番目に広い(81.7 万㎡)都立公園です。四季折々の自然、桜並木、菖蒲鑑賞、釣りに、バードウォッチングと一日楽しく過ごせると思います。また都心から近く手軽に旅行気分が味わえます。

小合溜から引いた大小の水郷が園内を走り、水郷景観を作り出しています。園内にはポプラ並木やメタセコイアの森、ハンノキなど水辺に強い樹木が生育しハナショウブ、スイレン、コウホネといった水生植物を多く見ることができます。また、百種を超える野鳥、35 種の水生植物、23 種の魚類、昆虫などが棲息し、自然と触れ合うことが出来ます。このほか、中央広場、フィールドアスレチック、バードサンクチュアリーなどがあります。

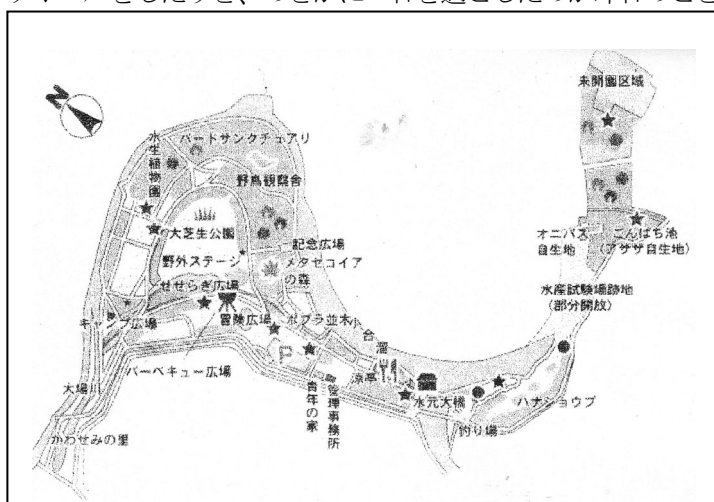


私も、子供たちが小学生の頃は、よくこの公園に遊びに来ました。ザリガニをとったり、網で魚をすくったり、キャッチボールをしたりと、のどかに一日を過ごしたのが昨日のことのように思い出されます。

ここは東京に居ながら、まるで軽井沢にでも来ているような錯覚を覚えるくらい自然が残っています。休日の水元公園で過ごすのも悪くないと思います。

現在、江戸川寄りに向かって新設拡張中で、より広大な公園に生まれ変わろうとしています。

交通機関はJR地下鉄千代田線・金町駅から京成バスで、「水元公園」下車、徒歩7分、または公園内に800台収容出来る駐車場もあります。



(広根淳一)



「雑記」

籠利 達郎(向島支部)



最近、下町のJazzクラブでマジック・ナポレオンのボナ植木さんとお会いすることがある。TV等でみる印象と違って(?)多方面において才能あふれる素晴らしい好人物です。もっともボクが会う時はマジシャンとしてではなく、Jazzギタリストorヴォーカリストとしてのボナ植木であることが多いんですが・・。

彼の才能のひとつに、文才がある。著書は「マジシャンのギターコード記憶術」、「書斎がいないマジック整理術」等で、豊かな感性と洒落た表現力!!ボクは好きです。もう、マジックより素敵!(うそっ、冗談です。)

その一端を彼のホームページ「新・手品師の裏側(SOMETHING)」より紹介いたします。

「象を冷蔵庫に入れる方法」

そりゃ無理だとかたは、頭が固い方です。正解は

- (1) 冷蔵庫のドアを開ける
- (2) 象を入れる
- (3) ドアをしめる

ね。入ったでしょ?

今度は「キリンを冷蔵庫に入れる方法」

同じだと思ったら大間違い。正解は

- (1) 冷蔵庫のドアを開ける
- (2) 象を出す
- (3) キリンを入れる
- (4) ドアをしめる

日常生活でもおこりがちなことです。当然知っていることだからといって省略しようと失敗することがあるわけです。

仕事や近所つきあいでの人間関係、とりわけ男女の仲も同じかも…。(別に意味はありませんが)

興味のある方は是非一度、ご高覧あれ・・・。

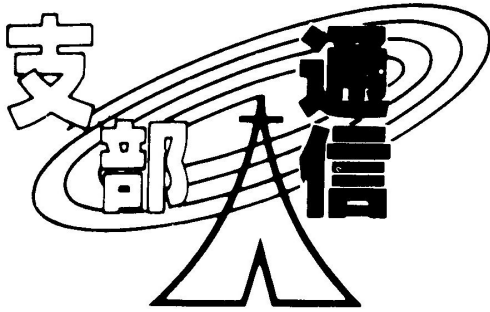
<http://www.amy.hi-ho.ne.jp/napobona/index.html>

もうひとつ、これはボクが聞いた話、真偽のほどは確かではありませんが、間違いなく最近のマイヒット話です。

JR山手線、内回りでのこと。目黒を過ぎて車内アナウンスがあり「次は大崎～」。あれっ?五反田じゃないの?車内の乗客の大半がこの間違いに気がついた様子。でも、訂正はなし。そのうち、五反田に着き、そして無事発車。次はどんなアナウンスをするんだろう?聞き耳を立てる車内に車掌さんの声。「次は……」。ここで初めて彼も気がついた気配。さて、どうする……。

静まる車内に落ち着いた声で「次も大崎～」。

まあ、人生たまにはこういったウィットにとんだ開き直りも必要かなって思ったりしています。



■城南支部・品川支部

合同納涼会

城南・品川両支部合同の納涼会が8月26日(金)pm6:00より参加者31名(城南12名、品川12名、事務局2名)により、高輪プリンスホテルレストラン「ル・トリアノン」に於いて催されました。

藤田直人品川支部長の開会の挨拶に続き、草間英一顧問の乾杯のご発声で、台風一過の厳しい残暑を忘れさせる乾杯の冷たい美味しいビールでした。

都会とは思えない静かな庭園の中に佇む高級レストランで、次々と運ばれるコースのお料理に舌鼓を打ち、その上、浅川浩様のご尽力によるローストビーフの食べ放題の特別メニューが、酷暑で消耗した体力回復に一同感激のサービスメニューでした。

リクエスト曲によるピアノの生演奏もあり、和やかな雰囲気の中、初めての合同納涼会のため、自己紹介などで両支部の親交を深めました。

城南支部は、昭和48年に285社を、城南第一(城南)、城南第二(品川)、城南第三(大田)に三分割し、城南連合支部として32年が経過しましたが、近年の諸状況により合併の動きが出て参りました。

城南、品川両支部長より、これからも統合に向けて両支部の交流の機会を作り、親交を深めて行きたいとお話があり、若山満城南支部長の閉会の言葉で盛況裡のうちに閉会となりました。

(写真：藤田直人、文：板倉富美子)



■葛飾支部

初秋の山寺(立石寺)

上ノ山温泉への旅

葛飾支部(小倉攻一支部長)は去る9月3日・4日(土日)、恒例の親睦旅行会を行った。今回の旅行は念願の山寺と上ノ山温泉郷への行程1000kmのバス旅行である。

一行18名(女性8名)は早朝6時30分大型サロンバスに乗車、支部事務所前を出発した。車は四ツ木ICより首都高速道を経て東北自動車道に入り、最初の目的地の山寺に向かって順調に走った。車中では伊藤幹事の進行で小倉新支部長の挨拶のあと、早速朝食タイムとなり、用意された酒、ビール、焼酎と婦人部(茂木、渡辺)の方々の心尽くしのおにぎり、漬物、枝豆等が配られ、太田顧問の乾杯でミニ宴会が始まった。

車内での賑いをよそに車は、木槿(ムゲ)や夾竹桃(キョウチクトウ)の花が咲き競う東北道を佐野SA―矢板北IC―笹谷トンネルと

走り、目的地の山寺に到着した。昼食は山寺を一望できる風雅の国“馳走屋”(チウヤ)で名物の芋煮定食で腹拵えし、山寺に向かった。

「閑けさや岩にしみ入る蟬の声」俳聖芭蕉の区で有名な山寺は正しくは宝殊山立石寺称し、貞観2年(西暦860年)東北地方の開拓者慈覚大師円仁が清和天皇の命を受けて人材の養成を目的として開かれた霊場である。

山の中腹にある展望場へは往復1時間の登・下山、難コースで勇気ある挑戦者は半数の9人だけだった。山寺を後に車は将棋の故郷・天童を経て宿泊先の上ノ山温泉、日本の宿“古窯”(コヨ)に入宿した。

「初秋や蟬声、絶えし立石寺」

定刻、6時15分、入浴後、浴衣に着替え夜の宴の始まりである。伊藤幹事の司会で小倉新支部長の挨拶の後、関根相談役の発声で乾杯、開宴となり、旅館心尽くしの料理に舌鼓を打つうちに早速カラオケタイムになり、2時間後、菊池顧問の中締めで閉





宴、全員で二次会へと移り、またまた喉自慢となり、全員が歌い疲れたところで解散した。

台風 14 号の影響で激しい雨で迎えた 2 日目、幸い出発時には雨も上がり名物の花笠(はがさ)に見送られ旅館を後にした。

予定のコース通り、高橋フルーツ園を経て、大聖寺、亀岡文殊堂に到着し、ボランティアガイドの案内で参拝した。俗称亀岡文殊は松高山大聖寺と称し、日本三大文殊(出羽の亀岡、奈良の安部、京都の切戸)として有名で、“知恵の文殊”または“生き文殊”と称し、学徳成就の守護仏として受験生の参拝が絶えないそうである。

「回廊に折鶴ならぶ秋文殊」

つづいて、まほろばの里、高畠ワイナリーに立寄り、試飲のワインを十分にいただきお楽しみみの米沢市の昼食場所に到着、早速、上杉鷹山(うえすぎ とうざん)で有名な上杉神社を参拝し、上杉城中苑で昼食として贅沢な米沢牛のしゃぶしゃぶで、またまた舌鼓を打ち、是員心身共にリフレッシュした。

予定されたスケジュールを終えて、午後 2 時米沢を出発、栗子トンネル―那須高原 SA―羽生 PA とそれぞれ休憩をとり、首都高速四ツ木 IC を経て出発地に無事帰着し、全員長旅の疲れも見せず重い手土産を手には家路に向かった。

伊藤、西谷両幹事さん、婦人部の方々、本当にご苦勞様でした。

(文・関根利定、写真・神谷博行)

■城西支部

例会・勉強会

城西支部(小橋秀一支部長)は 7 月 22 日(金)午後 7 時から池袋「東明ロンファン」で例会及び勉強会を開催した。総務委員長の佐藤氏の司会で始まり初めに小橋支部長から「本日はお忙しい中、出席頂きありがとうございます。この後すぐに勉強会に入りますが、その前に一点だけお知らせしたいことがあります。ここ最近、城西支部では事業を廃止したり会社を退職したりとの報が相次ぎ、支部役員の人事にも少なからずとも影響が出てまいりました。支部運営に支障が出ない様に対応していますが、皆様のご協力を重ねてよろしくお願い申し上げます」と挨拶があった。

勉強会の講師は保険代理店(有)ライフデザイン代表取締役の谷中充氏で「個人情報保護法」について講演した。それによると、正式名称は「個人情報の保護に関する法律(平成 15 年法律第 57 号)」。個人情報を悪用する犯罪への対抗処置としての法律。2005 年 4 月から 5000 名以上の個人データを持った事業者全てに適用される。

この法律の作られた背景として、パソコンやインターネット、データベースの普及によって個人の情報を悪用しようとするのが簡単になってしまった。これまで情報というのは形がなく、コピーして盗まれても元がなくなるわけではなく、具体的な被害もないので、窃盗扱いにはならなかったが、名簿等を悪用した振込め詐欺を代表とする事件が近年多発するようになり、これ以上悪事を許さないため法律で罰則を作ろうというのが趣旨となっているという。

30 分間の講演の後、本部委員会報告を各

委員より行った。続いて今後の支部行事予定について石田副支部長より説明があった。
○秋の研修旅行(10月22～23日／伊香保温泉)

○次回例会(9月16日予定／薬品メーカー技術者による3価クロメート講演予定)

○西部支部との交流会(8月5日(金)／吉祥寺)

○環境月間講習会(11月11日予定)

以上をもって各報告を終了、飯島相談役が「本日の例会は出席者が少なくさびしく思う。また先ほど支部長より報告されたが、支部員そのものの人数が減少しているとのことで我々業界の厳しい現実を直視し、一致団結して支部を盛り上げ頑張っていこう」と述べて乾杯の音頭をとり、懇親会に移った。

■足立支部

親睦旅行「鬼怒川」へ

足立支部(永田一雄支部長)は9月3日、土曜日、支部員の親睦を図るため親睦旅行

を行った。ここ数年、支部員とその家族との日帰り親睦旅行を行ってきたが、本年は支部員の親睦をより深めるため鬼怒川温泉「あさや」での一泊旅行とした。

当日の参加者は14名であった。北千住駅前に午後1時に集合し、特急スーパーに乗り和気藹々と目的地に向かった。

午後6時より宴会を行った。宴会に入り、永田支部長より「本日は多数の皆様のご参加を賜り感謝申し上げます。秋の気配は間近に感じられます。暑い夏、皆様にはお仕事、ご苦労様でした。企業活動は基本的には自助努力によりますが、個人ではどうにもならないこともあります。そのための組合ですので、より親睦を深め、困難なときには相談できるような間柄を築いてください。本日は温泉に浸かり日頃の疲れを癒してください」と挨拶があった。永田支部顧問が乾杯を行い、小澤常任理事が中締めを行った。宴会では普段歌わない人まで全員1曲ずつカラオケに興じた。宴会終了後もカラオケなどの二次会等、夜遅くまで楽しい一時を過ごし、支部員同士の懇親をより深めた。



東京都中小企業の景況(8月調査) 東京都産業労働局商工部

◎都内中小企業の業況 DI は、3 ヶ月連続の改善からわずかに悪化した。前年同月比売上高 DI は、製造業と卸売業がともに悪化し、小売業がわずかに改善した。今後3 ヶ月の見通し DI は前月比6 ポイント減少し、先行きに対し厳しい見方となった。

○7月の都内中小企業の業況 DI は▲35(前月▲32)と前月比3 ポイント減少し、3 ヶ月連続の改善からわずかに悪化した。業種別にみると、製造業は▲31(同▲28)と前月比3 ポイント減少したわずかの悪化で、一進一退の動きとなった。また、サービス業は▲29(同▲23)と前月比6 ポイント減少し、連続の悪化となった。小売業は3 ヶ月間変化に乏しい状態が続いている。業種区分別にみると、製造業では堅調な設備投資に支えられ「一般・精密機械等」は改善したが、「材料・部品」「住宅・建物関連」は大幅に悪化した。小売業では「衣料・身の回り品」が前月比21 ポイント減少し、大幅に悪化した。

○前年同月比の売上高 DI は▲38(前月▲36)と前月比2 ポイント減少し、3 ヶ月連続の悪化となった。業種別にみると、製造業は▲36(同▲32)と前月比4 ポイント減で、やや悪化した。業種区分別にみると、製造業では「電気機器」が前月比16 ポイント減少し、大幅に悪化した。小売業では「耐久消費財」の大幅な改善が目立った。

○当月と比べた今後3 ヶ月(8~10月)の業況見通し DI は▲20(前月▲14)と前月比6 ポイント減少し、先行きに対し厳しい見方となった。業種別には、4 業種とも前月水準を下回り、悪化予想を強めている。特にサービス業は前月比12 ポイント減少し、当月に比べさらに厳しくなるとみている。

編集後記

さきの敬老の日(9/19)に総務省は高齢者の推計人口として、65 歳以上の高齢者が2556 万人、総人口に占める割合は前年比0.5 ポイント増の20.0 となり、初めて2割に達し、国民の5人に1人が65 歳以上になったことを発表した。

また、国連経済社会局が去る2月24日に発表した世界人口予測2004年版によると、現在日本が世界一の高齢国となっているが、2050年には日本以上に韓国の高齢化が進み、さらに、中国の高齢化も深刻で、現在の60歳以上の1億4000万人から3倍の4億3000万人に急増、世界の60歳以上の5人に1人が中国人という高齢者大国なることを指摘している。

さきに検察庁は日本の高齢者の運転免許証保有者が昨年末927万人で10年前の2.1倍に急増し、それに伴って高齢者の事故が急増していることを発表した。また

に日本は本格的な高齢化社会に突入している。これから年金問題や色々な対策が急がれている。

広報9月号

印刷 平成17年9月15日

発行 平成17年9月15日

(毎月1回20日発行 第38巻第9号)

発行所 東京都鍍金工業組合

〒113- 東京都鍍金公害防止協同組合

0034 東京都文京区湯島1-11-10

Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166

発行責任者 大村 功作

編集責任者 神谷 博行

印刷 スザキ企画 Tel 047(338)1222

〒272-0802 市川市柏井町2-1419-4

定価 500円